

<様式1>

令和3年度 さいたま市立馬宮西小学校 自己評価書

校長 浅田 俊 哉 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 確かな学力の定着を図るために、基礎基本の徹底と個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。—教材・教具を工夫し分かりやすい授業を展開し、GIGAスクール構想の推進
- (2) 児童一人ひとりが期待感をもって登校し、満足感をもって下校する、愛があふれる教育を推進する。教職員と児童、保護者・地域がチームワークを向上し、協調・協働できる人間関係を構築していく。—いじめの未然防止を行い、教育相談体制の充実
- (3) 新型コロナウイルス感染症拡大に対する迅速・適切な対応を行いながら児童の様子や学校の取組を保護者や地域に知らせ、地域とともにある学校経営を行う。  
—地域連携を充実し、コミュニティ・スクールの推進

2 評価結果について

- (1) 「学習環境の整備・改善がよく図られている」という項目では教職員は肯定的な意見が84%、保護者は89%であった。また、「児童が分かりやすいように教え方や、教材・教具を工夫した授業を行っている」という項目では教職員は100%であるが、保護者は88%であった。保護者から体育館を中心に施設の古さを指摘する声が上がっている。安全管理含め、施設設備の見直しが求められている。本年度は一人1台タブレット端末の配付があり、活用について心配する面があったが、児童及び教職員も軌道に乗ってきている。
- (2) 「いじめの未然防止に努め、いじめを見逃さない指導を適切に行っている」の項目で教職員100%、保護者で86%の肯定的評価を得た。教育相談体制を充実し、SC、SSWとの面談設定、教育相談室など他機関とも連携し、学校全体で取り組んでいく。
- (3) 「児童の様子や学校の取組が分かるように知らせている」の項目で教職員100%、保護者は98%の肯定的評価を得た。コロナ禍での教育活動で制限がある中ではあるが、行事等を精選し、安心安全な取組を考え実行し、保護者及び地域からの信頼関係を築くことを学校として取組続けていく。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

・「読む」「聞く」「考える」「表現する」「伝え合う」の時間を各教科において意識的に確保し、タブレット端末等を効果的に活用し、一人ひとりが自信を抱きながら学習に取り組む姿勢の向上につなげていく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。